

【受賞作品】

Y-GOLD（最優秀賞）



Photo : Otsuka Keita

Fire Server

高見澤峻介

会場：GASBON METABOLISM

本装置はwebサーバーです。熱の温度差によって発電される仕組みを電源としているので、蝋燭に火がついている時、冷却が十分な時にのみアクセスが可能なサーバーです。蝋燭が点灯中、お手持ちの端末で作品の前に書かれたURLにアクセスしてみてください。また、いつか思い出して再アクセスしてみてください。その時、もし火が灯っているならば、ここに全世界からアクセス可能です。



プロフィール

"火"や"光"といったプリミティブなメディアを通して、現代の視覚環境や通信技術の社会的・技術的基盤を巡る作品を制作している。主な展覧会に、グループ展「沈黙のカテゴリー | Silent Category」（クリエイティブセンター大阪、2021）、個展「Screening Organon」（CASHI、東京、2020）、個展「Screening Organon」（四谷未確認スタジオ、東京、2019）等。

<https://snsk.org/>

受賞コメント

この作品は火と水を扱う特性上、展示条件が非常に厳しいもので、まずそうした作品を展示できる機会を与えてくださったことに感謝しています。私は高校生まで山梨県の韮崎に住んでいました。当時、県内で現代美術に触れる機会が少なく、刺激の乏しさを感じていました。しかし、近年はこのようなアワードをはじめ、様々な会場や地域で作品に気軽に触れられる機会が増えており、本当に嬉しい限りです。普段現代美術に親しみのない方も、思わぬ作品との出会いがあるかもしれません。是非多くの方々に作品に触れ合ってもらいたいと思います。今後も山梨で現代美術シーンが盛り上がっていくことを楽しみにしています。

Y-SILVER (優秀賞)



防災無線通信

永田風薫

会場：GASBON METABOLISM (FabCafe Fujiにて記録展示あり)

ホーンスピーカー、モーターサイレンからなる行政防災無線を模した音響装置によって上演される音楽作品。全国約1700箇所もの自治体に配備される防災無線、その多くが毎日の時報を鳴らす目的で使用されている。私たちは日々、時報を聞きながら、いつかくる災害を恐れ、時に過去の災害を思い出し、郷愁の中で共同体を営んでいる。警報や時報などのメロディ、そして“防災”というフィクションによって仮初の共同体を生み出し、かつてあったこと、これから起こることを再生する。



プロフィール

音楽家、アーティスト。1998年 静岡県浜松市生まれ。2021年東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科卒業。現在同学大学院映像研究科メディア映像専攻在籍。都市空間に流れる音や音楽を扱った作品制作やエレキギターの演奏を通して、音を持つ社会的な力や政治性について探究している。主な展覧会に、個展「うるわしのハワイ」(Room_412、東京、2021) など。受賞歴に、令和2年度東京藝術大学アカンサス音楽賞受賞。2021年Portrait of Japan グランプリ (アレック・ソス選出) など。

受賞コメント

このたびは、栄誉ある賞を受賞させていただき、大変光栄に存じます。様々な災禍が人々を襲い、破壊的なジェノサイドが行われている中、防災が持つ意味とそこに働く力のあり方は変わり続けているように感じています。多くの人が故郷や命を失う中で、寄付や支援以外に芸術が災禍に対してできることは、災禍を現実として受け取り、よく考え、作品にすることしかないと思います。今もずっと考えています。むしろ、ずっと考え続けるためにつくっているのでしょう。それこそが行政ではなく、芸術ができる“防災”だと考えています。きっとこの作品の持つ意味は、これから先も変わり続けていくのだと思います。これから先、あらゆる災禍が、いずれ僕や僕の親しい人たちにも降りかかることになるかもしれません。その時の“防災”のため、芸術に携わる者の端くれとして、今日もまた、祈っています。

Y-SILVER (優秀賞)



Photo : Otsuka Keita

滑琴狂走曲 in 秋田！ (カッキンラプソディー・イン・アキタ) / KAKKIN Rhapsody in Akita!
おしまたくろう

会場：FUJIHIMURO

滑琴狂走曲 in 秋田!は、秋田市内を題材に作曲した「室内道楽」と「雪中演走」の2曲からなる演走イベントである。1年間を通して秋田在住のスケーターや音楽家らの協力を経て滑琴と音響装置を改良し、秋田市文化創造館にステージを設営した。制作当時、館内ではスケーターの敷地利用に対する住民から苦情に端を発し、共存とルール作りに向けた議論が行われていた。そうした社会の摩擦点で、ノイズという異端の在り方をユーモラス&ジョイフルに提案した。



プロフィール

PLAY A DAYをモットーに、身近なものを改変した楽器の制作と、それらを使った少し不思議なパフォーマンスを行う。音楽や楽器の名を借りた遊びやユーモアにより、社会の不寛容さをマッサージする。音の実験ワークショップ「SOUNDやろうぜ」主宰。 近作に車のウィンカーのタイミングのズレを利用したリズムマシン「NB-606」、魂柱を失ったバイオリンを昆虫として蘇らせる「Violinsect」など。

<https://oshimatakuro.tumblr.com/>

受賞コメント

個人的な楽しみやライフワークとして展開していた活動に、地域の住民や作家、文化施設のスタッフさんなど多くの方が関わってくださったことで、社会への広がりを持ったプロジェクトへと発展しました。

特定の地域を題材とした作品のため、他の土地や地域で発表した際にどのように見ていただけるのか不安もありました。今回の評価をいただいたことで、今後も生活や地域に根ざした活動に自信を持って取り組めそうです。ありがとうございました。

Y-CRYSTAL（山梨県賞）



Photo : Otsuka Keita

unsound dresser : 化粧箱、鳴ラナイ

筒 | tsu-tsu

会場：FUJIHIMURO

「ドキュメンタリーアクティング」と題し、演技 = 人が別の人になる過程をメディアとして扱っている。ここでは一連の活動、すなわち、取材、テキストの作成、稽古、演技は同価値であり、それらは不断の変化を見せ続ける。本作では、富士吉田の繊維産業を支え「織姫」と呼ばれた女性たちを演じた。「織姫」とは、単なる誘い文句だったという。60年前に、ははは、とその場で引き受けたあの人は、今日も織機に向かっているだろう。



プロフィール

ドキュメンタリーアクター。山梨県在住。幼児より修する日本舞踊から得た「筒（つつ）」という身体感覚を手がかりに、演技を用いたプロジェクトを展開する。2022年から山梨県河口湖町にてアーティスト・ラン・レジデンス「6okken」を設立・運営する。近年の活動に「地上」（十和田市現代美術館、2023）、「全体の奉仕者」（ANB Tokyo、2022）「Backflow to the junction」（ニューヨーク、2019）などがある。

Instagram: @tsu_tu_

受賞コメント

初回となる山梨県賞の受賞を光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いです。私は一昨年からは富士河口湖町に拠点を移し、「6okken」というアートを運営しています。都市圏から距離を取り、持続的な表現のための環境を考えることは、全体性を強いられる現代でいかに「私」として存在するかを考えることです。平和の実現には複雑に絡みあう力学を地道に解きほぐしていくしかありません。ここ山梨から、未来の慣性となる種を育ててゆきます。重ねまして、本作の実現にご協力くださった皆様に心より感謝を申し上げます。

やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品展

会期 | 2024年3月9日（土）～ 3月31日（日）
入場料 | 無料

会場 |

【甲府会場】

小さな蔵の美術館（甲府市丸の内1-1-25 甲州夢小路内）
開館時間：10:00-18:00（入館は17:30まで）
休館日：火曜日

【北社会場】

GASBON METABOLISM（北杜市明野町浅尾新田12）
開館時間：11:00-17:00
休館日：火・水・木曜日

【富士吉田会場】

FUJIHIMURO（富士吉田市富士見1-1-5）
開館時間：11:00-17:00
休館日：火曜日

FabCafe Fuji（富士吉田市下吉田3-5-16）
開館時間：8:00-17:00
休館日：火曜日

オンラインの作品は、やまなしメディア芸術アワードウェブサイトアクセスいただきご覧ください。

やまなしメディア芸術アワードウェブサイト | <https://y-artaward.jp>

X | @y_artaward

Facebook | @YamanashiMediaArtsAward

主催 | 山梨県

後援 | 多摩美術大学、東京藝術大学大学院映像研究科、山梨大学、山梨日日新聞・山梨放送、
テレビ山梨、エフエム富士、エフエム甲府